科目名	成人看護学方法論Ⅰ	講師	非常勤講師
履修時期	2年　前期	単位数	1
		時間	30

＜科目設定理由＞

解剖生理学では、人体の様々な組織や細胞・臓器について、それらが正常に機能することで人間の生命を維持していることを学んだ。病態学では、人体の様々な機能が破綻した状態について学び、病態・検査・治療に関する知識と結びつけ身につけた。

この科目では、解剖生理学と病態学の知識を基盤とし、成人看護学概論で学んだ成人期にある対象の特徴をふまえ、対象が各種の健康障害から回復していく、障害を持ちながらも生活を再構築していく過程を支援するための知識と技術について学ぶ。健康障害を抱えた対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、対象の置かれた状態を観察し判断するための知識、回復に向けた支援を対象に合わせて実践するための知識を身につける。

ここでは、呼吸器障害、循環器障害、運動機能障害のある対象への看護について学習する。

学習目標	1. 呼吸器障害のある対象の看護を理解する 2. 循環器障害のある対象の看護を理解する。 3. 運動機能障害のある対象の看護を理解する。
学習内容	＜呼吸器＞ 1回目　呼吸機能障害のある患者の観察とアセスメント 検査・処置を受ける患者の看護 2回目　呼吸困難時の呼吸理学療法（演習） 体位ドレナージによる排痰の援助、ポジショニング 3回目　気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患患者の看護 4回目　肺切除術を受ける患者の看護 5回目　肺がん（終末期）患者の看護 ＜循環器＞ 1回目　循環機能障害のある患者のアセスメント 検査・処置を受ける患者の看護（心臓カテーテル検査、心電図） 2回目　不整脈患者の看護 ペースメーカーを装着した患者の看護 3回目　虚血性心疾患患者の看護 経皮的冠動脈形成術（PCI）を受ける患者の看護 4回目　手術を受ける患者の看護 冠動脈バイパス術、弁置換術、弁形成術 5回目　心不全患者の看護 心臓リハビリテーションにおける看護 ＜運動器＞ 1回目　運動機能障害のある患者のアセスメント 検査・治療を受ける患者の看護（脊髄造影、関節鏡、ギプス固定、牽引法） 2回目　変形性膝関節症患者の看護、人工関節置換術を受ける患者の看護 3回目　関節リウマチ、椎間板ヘルニア患者の看護 4回目　脊髄損傷、骨腫瘍患者の看護
授業形態	講義、演習
評価方法および評価の観点	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学②呼吸器　③循環器　⑩運動器
参考資料・図書	適宜指示する
履修上の留意事項・受講条件	解剖生理学、病態学を復習した上で授業に臨むこと。